

生化学自動分析装置と臨床検査システムの融合

～CLALIS リンクの御紹介～

○染谷 英明 (日本電子株式会社 ME 販促室)

【はじめに】

生化学の分野では早くから自動分析装置の普及が進み、多項目の測定結果を短時間で得られるようになりました。データ処理のためのコンピューターも劇的に進歩し、迅速に正確な報告をするためにはなくてはならない存在です。

病院情報システムや Web 結果参照システムなどとのシステム連携が導入されると、結果値の承認作業(送信確認)のために多くの時間を検査システムに費やすこととなります。

しかし、装置とコンピューターの間でやりとりされる情報は測定データと付随する限られた情報にとどまっているため、ひとたびイレギュラーが発生すれば検査端末での作業を中断し、装置を操作して確認する必要が生じます。

また、病院機能評価や ISO の観点からは「正確な結果を迅速に報告する」ことはもちろん、その結果値がどのような過程を経て得られたのかを記録し遡及できることも求められています。

これらの問題に対し、日本電子は「CLALIS リンク」を開発・提供しています。

【発表内容】

「CLALIS リンク」は日本電子製生化学自動分析装置 BioMajesty™ シリーズと臨床検査情報処理システム JCS-50L が連携することにより、従来は別々にしか管理できなかった情報も検査システムで一元的に管理できるようにする機能です。

発表では、「CLALIS リンク」の3つのポイントや想定するシーンでの使い方などを紹介致します。

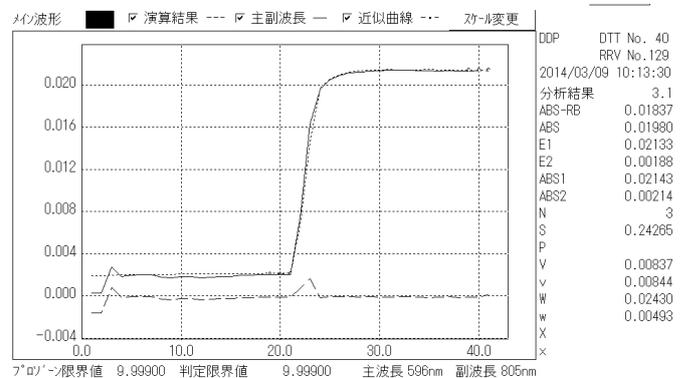
- ポイント1～結びつける
- ポイント2～早く知る
- ポイント3～予測する

また、装置毎に異なるフォーマットの紙帳票に手書きで記入していた試薬使用開始記録簿をコンピューター処理することで ISO15189 の要求事項により対応できるようになった事例を紹介いたします。

【おわりに】

このような連携機能を自動分析装置と臨床検査システムの双方に組み込むことにより、日常業務での装置とシステムの間壁が低くなり、現場の負担軽減や検査結果の信頼性向上につながることを期待しています。大きな安心は小さな工夫の積み重ねから。日本電子は生化学自動分析装置を土台に、臨床検査のソリューションのお手伝いをいたします。

Fig-1 検査システム上で表示されるタイムコース例



資料請求先：03 (6262) 3583